

施設ごとの方向性(個票)

1

施設名		大阪府立弥生文化博物館		所在地		和泉市池上町4-8-27	
施設所管課		教育委員会事務局 文化財保護課		開設年		平成3年2月2日	
施設の概要	設置目的	歴史、民俗等に関する資料を収集し、保管・展示して府民の利用に供し、もって府民の文化的向上に資するため、博物館法第2条第1項に規定する博物館として設置		(18)府の収支 (決算)	府収入	194千円	
	管理者	(財)大阪府文化財センター			府支出	170,338千円	
	規模 (収容人員等)	地階:一般収蔵庫(413㎡)、特別収蔵庫(112㎡)、資料図書室(87㎡)、セミナー室(30名・82㎡)、写真室(59㎡) 1階:ホール(140名・145㎡)、サロン(113㎡)、ロビー(279㎡)、会議室(16名・56㎡)、事務室(58㎡)、学芸室(117㎡)、館長室(29㎡) 2階:常設展示室1(644㎡、弥生文化の体感)、常設展示室2(201㎡、池上曽根遺跡展示)、特別展示室(232㎡) 駐車場(大型7台、普通80台) 建築延床面積:4,001㎡ 主な常設展示 西浦銅鐸(国重要文化財)、池上曽根遺跡出土木器77点他(府指定文化財)など	府支出-府収入		170,144千円		
			利用者1人あたり府費投入額		3,687円		
	(19)施設職員数	(常勤職員数) 6 名 (非常勤職員数) 1 名					
施設建設時の財源内訳		総建設費5,190百万円(内施設建設費1,872百万円、土地購入費2,248百万円、展示工事費等1,070百万円) 全て一般財源					
利用状況	利用者数	一般 高・大学生 小・中学生 ⑮44,710人 : 25,328 1,138 18,244 ⑯43,952人 : 23,377 1,120 19,455 ⑰38,140人 : 19,428 1,055 17,657 ⑱46,143人 : 28,498 993 16,652 ㉑45,502人 : 26,397 848 18,257 入館料(通常) : 300円 200円 無料 " (特別展時): 600円 400円 無料 (65歳以上も同額)			稼働率・利用率	(特別展示室) ⑱66%(4期200日開催) (講座・セミナー) ⑱35回実施 ※稼働率=年間使用日数 ÷年間開館日数	
	主な代替・類似施設	(国1施設):唯一の民族学に関する大学共同研究施設 ・国立民族学博物館(吹田市千里万博公園)・昭和52年開設・建築延床面積:51,225㎡・入館料420円 (府1施設) ・近つ飛鳥博物館(河南町大字東山)・平成6年開設・建築延床面積:5,925㎡・入館料300円 (市町村45施設):地域密着型の歴史や文化の収蔵展示施設 ・大阪市立大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前)・平成14年開設・延床面積:23,694㎡・入館料600円 ・堺市市立堺市博物館(堺市堺区大仙公園内)・昭和55年開設・入館料200円 ・八尾市立歴史民族博物館(八尾市千塚)・昭和62年開設・入館料200円 (民間25施設):社史、コレクション中心の展示					
見直しの方向性		【地元関係自治体等との協働、連携強化】 ・利用者、地域及び地元関係自治体との協働・連携により、博物館を支える仕組みや活用策を検討 ・積極的な館外事業の展開 ・入館料、使用料の見直し ・上記の取組みの成果を検証し、平成21年度に改めてあり方を検討 (実施時期) 可能なものから順次実施					
見直しの理由		・周辺史跡とあわせて文化財を保存、公開し、当該施設を教育の場として提供・維持していくことが妥当 ・史跡に追加指定される可能性もあり、開発を伴う民間への売却は困難					
備考		・平成18年度末起債残高4.88億円 ・博物館法第23条:公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる					

施設ごとの方向性(個票)

2

施設名		大阪府立近つ飛鳥博物館		所在地		南河内郡河南町大字東山299		
施設所管課		教育委員会事務局 文化財保護課		開設年		平成6年3月25日		
施設の概要	設置目的	歴史、民俗等に関する資料を収集し、保管・展示して府民の利用に供し、もって府民の文化的向上に資するため、博物館法第2条第1項に規定する博物館として設置			(18)府の収支(決算)	府収入	438千円	
	府支出					200,511千円		
	管理者	(財)大阪府文化財センター	府支出ー府収入	200,073千円				
	規模(収容人員等)	・展示フロア(1,317㎡):①近つ飛鳥と国際交流(1階)、②日本古代国家の源流(中階、地階)、③現代科学と文化遺産(地階) ・その他 地階:一般収蔵庫(531㎡)、ホール(170名、230㎡)、セミナー室(30名・82㎡)、写真室(62㎡)、映写室(282㎡) 1階:普及ゾーン(362㎡)、ロビー(256㎡)、特別収蔵庫(71㎡) 2階:特別収蔵庫(82㎡)、資料室(36㎡)、会議室(16名、52㎡)、事務室等(219㎡) 駐車場(大型5台、普通80台) 建築延床面積:5,925㎡ 主な常設展示 修羅(国重要文化財)、美園古墳埴輪(国重要文化財)、前塚古墳石棺・堂山古墳副葬品(府指定文化財)など	(19)施設職員数	(常勤職員数) 7 名				
				(非常勤職員数) 1 名				
施設建設時の財源内訳		総建設費7,703百万円(内施設建設費6,680百万円、進入道路663百万円、風土記の丘整備360百万円) 財源内訳(一般2,996百万円、起債4,707百万円)						
利用状況	利用者数	一般 高・大学生 小・中学生 無料ゾーン ⑮90,427人: 22,609 2,532 8,457 56,829 ⑯87,443人: 23,726 2,268 8,033 53,416 ⑰85,369人: 22,509 1,788 7,301 53,771 ⑱96,186人: 26,129 1,645 7,618 60,794 ⑲99,170人: 27,064 1,626 8,170 62,310 入館料(通常):300円 200円 無料 無料 〃(特別展時):600円 400円 無料 無料 (65歳以上も同額)			稼働率・利用率		(特別展示室) ⑮62%(4期190日開催) (講座・セミナー) ⑮34回実施 ※稼働率＝年間使用日数÷年間開館日数	
	主な代替・類似施設	(国1施設):唯一の民族学に関する大学共同研究施設 ・国立民族学博物館(吹田市千里万博公園)・昭和52年開設・建築延床面積:51,225㎡・入館料420円(府1施設) ・弥生文化博物館(和泉市池上町)・平成3年開設・建築延床面積:4,001㎡・入館料300円 (市町村45施設):地域密着型の歴史や文化の収蔵展示施設 ・大阪市立大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前)・平成14年開設・延床面積:23,694㎡・入館料600円 ・堺市市立堺市博物館(堺市堺区大仙公園内)・昭和55年開設・入館料200円 ・八尾市立歴史民族博物館(八尾市千塚)・昭和62年開設・入館料200円 (民間25施設):社史、コレクション中心の展示						
見直しの方向性		【地元関係自治体等との協働、連携強化】 ・利用者、地域及び地元関係自治体との協働・連携により、博物館を支える仕組みや活用策を検討 ・積極的な館外事業の展開 ・入館料、使用料の見直し ・上記の取組みの成果を検証し、平成21年度に改めてあり方を検討 ・風土記の丘と一体的に管理していく中で、一層のコスト縮減(実施時期) 可能なものから順次実施						
見直しの理由		周辺史跡とあわせて文化財を保存、公開し、当該施設を教育の場として提供・維持していくことが妥当						
備考		・平成18年度末起債残高33.58億円 ・博物館法第23条:公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる						

施設ごとの方向性(個票)

3

施 設 名		大阪府立近つ飛鳥風土記の丘		所 在 地		南河内郡河南町大字東山299	
施設所管課		教育委員会事務局 文化財保護課		開 設 年		昭和61年6月1日	
施設の概要	設置目的	一須賀古墳群を保存するとともに府民にこれと親しむ場を提供し、もって府民の文化的向上に資する		(18)府の収支 (決算)	府収入	92千円	
	管理者	(財)大阪府文化財センター			府支出	近つ飛鳥博物館と一体管理	
	規模 (収容人員等)	管理棟(415㎡)、便所(19㎡)、休憩所(23㎡)、展望台(9㎡) 駐車場(普通30台) 敷地面積:255,482㎡ 主な公開施設 一須賀古墳群(国指定史跡)には102基の円墳があり、その内40基を整備、公開	府支出ー府収入		—		
			利用者1人あたり府費投入額		—		
				(19)施設職員数	—		
					—		
施設建設時の財源内訳		総建設費82百万円 財源内訳(国庫25百万円、一般57百万円)					
利用状況	利用者数	⑮73,542人 ⑯72,255人 ⑰72,262人 ⑱83,478人 ⑲88,000人(見込み) 入館料:無料		稼働率・利用率		⑳古墳見学会、考古学教室、体験学習、古墳時代祭りなどを開催	
	主な代替・類似施設	(他府県16施設) ・文化庁の風土記の丘設置構想に基づき、遺跡及び歴史資料の保存及び活用を目的として都道府県が設置する ・2007年現在では、全国16か所に風土記の丘が設けられている(近畿では、大阪府、和歌山県、滋賀県の各1箇所)					
見直しの方向性		【地元関係自治体等との協働、連携強化】 ・近つ飛鳥博物館と一体的に管理していく中で、一層のコスト縮減 ・利用者、地域及び地元関係自治体との協働・連携により、博物館を支える仕組みや活用策を検討(実施時期) 可能なものから順次実施					
見直しの理由		古墳群として文化財指定され、府有施設として取得し保存・公開してきた経過から、府による管理が適当					
備 考		国指定の史跡であるため、史跡に影響を与える現状変更は不許可					

施設ごとの方向性(個票)

4

施 設 名		大阪府立泉北考古資料館		所 在 地		堺市南区若松台2丁	
施設所管課		教育委員会事務局 文化財保護課		開 設 年		昭和45年11月1日	
施設の概要	設置目的	考古資料を収集し、保管し、展示して府民の利用に供し、もって府民の文化的向上に資する		(18)府の収支 (決算)	府収入	0千円	
	管理者	府直営			府支出	11,088千円	
	規模 (収容人員等)	展示館:地上1階(展示室3室)、地下1階 収蔵庫:地上2階、地下1階 駐車場なし 建築延床面積:1,828㎡ 主な常設展示 陶器窯跡群出土須恵器2,585点(国重要文化財)など			府支出ー府収入	11,088千円	
					利用者1人あたり府費投入額	858円	
					(19)施設職員数	(常勤職員数) 0 名 (非常勤職員数) 3 名	
施設建設時の財源内訳		総建設費96百万円(企業局会計で実施)					
利用状況	利用者数	(15)14,053人 (16)12,833人 (17)13,232人 (18)12,621人 (19)10,125人 入館料 無料(H8～)			稼働率・利用率	(18)展示スペースのみ 週休2日(月・火)で開館	
	主な代替・類似施設	(国1施設):唯一の民族学に関する大学共同研究施設 ・国立民族学博物館(吹田市千里万博公園)・昭和52年開設・建築延床面積:51,225㎡・入館料420円 (府2施設) ・近つ飛鳥博物館(河南町大字東山)・平成6年開設・建築延床面積:5,925㎡・入館料300円 ・弥生文化博物館(和泉市池上町)・平成3年開設・建築延床面積:4,001㎡・入館料300円 (市町村45施設):地域密着型の歴史や文化の収蔵展示施設 ・大阪市立大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前)・平成14年開設・延床面積:23,694㎡・入館料600円 ・堺市市立堺市博物館(堺市堺区大仙公園内)・昭和55年開設・入館料200円 ・八尾市立歴史民族博物館(八尾市千塚)・昭和62年開館・入館料200円 (民間25施設):社史、コレクション中心の展示					
見直しの方向性		【廃止・市へ移管】 ・府の施設としては廃止 ・堺市との協議の上、平成21年度中に移管 (実施時期) 平成21年度中に実施					
見直しの理由		・須恵器発祥の地である地元市で、管理、保存、公開されるのが望ましい ・施設は昭和45年の開設後約37年が経過					
備 考							

施設ごとの方向性(個票)

5

施設名		大阪府立狭山池博物館		所在地		大阪狭山市池尻中2丁目	
施設所管課		都市整備部 河川室 ダム砂防課		開設年		平成13年3月28日	
施設の概要	設置目的	狭山池の治水及びかんがいに関する資料等を収集し、保管し、及び展示して、府民の利用に供し、もって土木事業の歴史的役割に関する府民の理解を深めるとともに、府民の文化的向上に資する		(18)府の収支(決算)	府収入	3,405千円	
	管理者	府直営			府支出	185,775千円	
					府支出－府収入	182,370千円	
					利用者1人あたり府費投入額	2,047円	
	規模(収容人員等)	1階:常設展示室(1,815㎡)、特別展示室(219㎡)、一般収蔵庫(159㎡)、特別収蔵庫(56㎡)、書庫1・2(計86㎡)、写真室(19㎡)、セミナー室(29㎡)等 2階:情報コーナー(111㎡)、ロビー(84㎡)、ホール(126席・154㎡)、会議室(32㎡)、学芸員室(89㎡)等 3階:喫茶コーナー(88㎡)、ロビー(22㎡)等 建築延床面積:4,948㎡ 主な常設展示 ・狭山池の堤(高さ約15m、幅約60m) ・東樋(長さ約60m)、中樋(石棺、重源碑を含む)…いずれも府指定文化財		(19)施設職員数		(常勤職員数) 4名	
						(非常勤職員数) 4名	
施設建設時の財源内訳		(一般財源) 1.06億円 (起債) 38.69億円 (国庫補助金) 13.25億円 (その他) 一億円		〔合計〕53億円			
利用状況	利用者数	⑮80,159人 ⑯77,633人 ⑰68,552人 ⑱89,111人 ⑲86,033人 入館料:無料 ※H18年度の年齢別内訳 中学生以下:40%、高校生～30歳未満:15%、 30～40歳代:20%、50～60歳代:20%、70歳台以上:5% ※ピーク時の利用者数:平成18年度 89,111人		稼働率・利用率		(特別展示室) ⑱59.6%(利用180日/開館302日) ⑲66.6%(利用201日/開館302日) (ホール) ⑱31.5%(利用95日/開館302日) ⑲31.1%(利用94日/開館302日)	
	主な代替・類似施設	(国) ・淀川資料館(枚方市):淀川の歴史、環境、河川改修事業について展示 ・昭和52年開設 ・入館無料 (市町村) ・大阪市立下水道科学館(大阪市此花区):下水道事業について展示 ・平成7年開設 ・入館無料 ・大阪狭山市立郷土資料館(大阪狭山市):石器、武具等の展示(延床面積:280㎡、収容定員60名) ・昭和56年開設 ・入館無料					
見直しの方向性		【市との共同運営等による有効活用】 ・大阪狭山市との共同運営等による施設の有効活用 ・施設の有料化、開館日の縮小などの経営改善方策による運営の一層の効率化 ・ボランティアとの連携により地域協働を積極的に推進する (実施時期) 可能なものから順次実施					
見直しの理由		・狭山池は地域協働の拠点であり、府市共同運営と地域の協力のもと活用方策を検討する方が望ましい ・開設後約7年しか経過していないため、建物の有効活用策を検討すべき ・敷地が河川区域に位置することから民間への売却は困難					
備考		平成18年度末起債残高37.53億円(うち政府資金3.97億円)					